

(四国地方整備局からのメッセージ)

◆◆◆四国地方整備局トピック 2019. 7. 10◆◆◆

【四国地方整備局 道路部長 直原 明史】

「88（はちはち）」と聞いて・・・

今年4月から四国地方整備局でお世話になっております道路部長の直原（じきはら）です。

平成14年から2年間、道路部道路計画課長でおりましたので、四国地整は2度目、15年ぶりの出戻りです。

さて皆さん、「88（はちはち）」と聞いて、どんなことを思い浮かべるでしょうか？

四国の方なら真っ先に「四国八十八箇所霊場」が上がるでしょう。他にも88歳「米寿のお祝い」、「1988年ソウルオリンピック」そして韓国タバコの「88（パール）」、古い方なら救急車、パトカーはじめ特殊用途自動車に与えられるナンバープレート「88ナンバー」などなど様々あるでしょうが、国土交通省職員の間ではいわゆる業界用語的に四国地方整備局のことを「88」と呼んでいます。

古く昭和31年の旧建設省時代から国土交通省では、災害時での確実な通信の確保を目的として、NTT回線とは独立した独自の通信回線網（マイクロ波多重無線網）を整備しており、現在では国土交通本省－地方整備局－河川・道路事務所－出張所を網羅するとともに、都道府県と一部の市町村、内閣府や水資源機構、高速道路会社とも接続しています。そこで、この回線網を使って四国地方整備局に電話をかけるときの電話番号が88からはじまるため、四国地方整備局は「88（はちはち）」と呼ばれているわけです。いわば国土交通省の内線電話ですが、これがあるからこそ地震や豪雨などの災害でNTT回線が途絶しても確実な通信が確保されるのです。現在では光ファイバ回線も活用し、衛星通信、ヘリコプター映像伝送システム等による災害箇所のリアルタイム映像の配信を可能とし、7月の九州豪雨のような大規模災害に派遣されるTEC-FORCEの復旧活動でも活躍しています。

八十八箇所霊場があるから88が割り振られたわけでもなく、北海道開発局の81からはじまり、東北地整は82、関東地整は83、という順番で北から機械的に割り振られた中、たまたま四国が88をもらったに過ぎないのですが、「八十八箇所霊場」を抱える四国地方整備局が88番をいただいたのは単なる偶然には思えません。

そして、「八十八箇所霊場」に並んで四国の皆さんにもっと親しんでいただきたいのが「四国8の字ネットワーク」です。

四国4県を8の字で結ぶ延長810キロの高速道路ネットワーク。昭和60年（1985年）に松山道 三島川之江～土居間で四国初の高速道路が開通し、15年経った平成12年（2000年）には四国4県の県庁所在地を高速道路で結ぶエックス（X）ハイウェイ：延長406キロが完成しました。さらに、エックスは8の字の時代に入り、令和元年の現在、その延長は581キロ、7割を超えたところです。四国8の字ネットワークは、完成までにまだ200キロ以上が残されていますが、くらしや地域経済の好循環

をまんべんなく行き渡らせ、魅力あふれる地域づくりを進めるため、そして待ったなしの南海トラフ地震などの大規模災害への備えとしても、新しい時代の四国には不可欠であり、一日も早い完成が望まれるところです。現在も、高知県、徳島県、愛媛県の各地で現在、鋭意整備中ですので、どうか皆さん応援をよろしくお願い致します。

目次

- 令和元年度 四国地方整備局管内技術・業務研究発表会の開催 企画部 企画課
- 松山港へダイヤモンド・プリンセス号寄航 松山港湾・空港整備事務所
- 具同・入田堤防事業竣工式について 中村河川国道事務所
- 鹿野川ダム改造事業 完成式について 山鳥坂ダム工事事務所
- 7月は「河川愛護月間」「海岸愛護月間」です 河川部 河川管理課 地域河川課
- 小学校に防災学習に行ってきました！ 防災グループ・企画部施工企画課

令和元年度 四国地方整備局管内技術・業務研究発表会の開催

【 企画部 企画課 】

四国地方整備局では、四国の社会資本整備に係る課題等の調査・研究成果を発表し意見交換することで技術力の向上や行政への反映を行うことを目的として、「令和元年度 四国地方整備局管内 技術・業務研究発表会」を下記のとおり開催します。研究発表会は一般公開で行い、優秀なものは国土交通本省で開催される国土技術研究会へ推薦する予定です。詳細は四国地方整備局のホームページに掲載しています。

<http://www.skr.mlit.go.jp/kikaku/kenkyu/>

日時：令和元年7月24日（水）・25日（木）

場所：高松サンポート合同庁舎 アイホールほか

松山港へダイヤモンド・プリンセス号寄航

【 松山港湾・空港整備事務所 】

5月21日（火）及び6月3日（月）に、愛媛県内初となる11万トン級の大型外航クルーズ船ダイヤモンド・プリンセスが、松山港に寄港しました。

初寄港となった21日には歓迎セレモニーが行われ、地元幼稚園児による歌とダンス、入港記念盾の贈呈や鏡開きなど、晴天のもと寄港を歓迎しました。

乗客約2,700人の約8割が外国人で、港からタクシーやシャトルバスと電車を乗り継ぎ、県内観光や買い物に繰り出していきました。クルーズが着岸した港町三津にも多くの観光客が訪れ、古い町屋が残るレトロな町並みを散策し、地域特有の文化にふれていました。市内の観光地等では、ボランティアガイドたちが外国人観光客をサポートしました。

出港時には息をのむ虎舞や水軍太鼓の演奏、みんなでやぐらを囲んでの盆踊り、そしてブラスバンド演奏でお見送りしました。少しずつ小さくなっていくクルーズ船に、多数の見物客が手を振り名残惜しむ様子から、クルーズに対する地域の関心の高さを

感じました。

クルーズ乗客や地元の反応は上々であり、クルーズ需要の高まりに伴い、四国各港での大型クルーズ船の寄港回数も今後伸びていくものと思います。クルーズ船の寄港は、観光や飲食などによる消費拡大だけでなく、観光客との交流による地域活性化も期待されています。今後も愛媛県や各市と情報を共有し、クルーズ寄港促進に向けて取り組んでいきます。

具同・入田堤防事業竣工式について

【 中村河川国道事務所 】

令和元年6月2日（日）、高知県四万十市立具同小学校体育館で、具同・入田堤防事業の完成を記念して、中村河川国道事務所、四万十市の主催により竣工式を開催しました。

式典には、地元選出の国会議員、県・市議会議員、関係者など約100名の方々に参加いただきました。

四万十市具同・入田地区の堤防は、堤防断面が不足していたため、想定している大雨により四万十川の水位が上昇した場合に非常に危険な状態となる恐れがありました。また、堤防上を走る市道具同坂本線と堤防に隣接する市道具同三里線は、ともに地域の主要な生活道ですが、道路幅が狭いため車両の対面通行に支障が生じ、歩行者も危険な状態でした。

そのため国土交通省では、これらの地区の堤防断面を拡幅するとともに、四万十市の市道拡幅を併せて実施してきました。そして、地域の皆様の協力のもと平成31年4月に事業が完成し、想定している四万十川の増水に耐えられる大きく丈夫な堤防となり、車や人が安全に通行できる市道となりました。

鹿野川ダム改造事業 完成式について

【 山鳥坂ダム工事事務所 】

鹿野川ダムは、平成18年に愛媛県から国土交通省に管理移管し、治水容量を増加させる改造事業に着手しました。平成23年にクレストゲートの改良工事が完成し、平成26年には曝気循環装置が完成、平成28年に選択取水設備が完成しました。トンネル洪水吐については、平成22年に関連工事に着手し、平成23年にはトンネル本体工事に着手、本年6月に完成し、6月9日（日）大洲市肱川町「風の博物館」にて、四国地方整備局主催による完成式を執り行いました。

式典の最初に、平成30年7月豪雨によりお亡くなりになられた方々のご冥福を祈り、参加者全員による黙祷を行いました。

式典には、国会議員、愛媛県副知事、大洲市長、西予市長、内子町長、水管理・国土保全局治水課長、地元関係者など約200名が参加し、工藤彰三国土交通大臣政務官による式辞、引き続き国会議員、愛媛県知事（代理：副知事）、肱川流域総合整備推進協議会会長（大洲市長）による祝辞をいただき、山鳥坂ダム工事事務所長より事業概要説明、肱川小学校の児童のみなさんと一緒に「くす玉開披」を行い、安楽寺陣太鼓保存会の皆さまによる歴史ある和太鼓の演奏にて最後を飾っていただきました。

トンネル洪水吐が完成したことにより、従来より約1.4倍の洪水調節容量を確保することが可能になり、治水機能が増強されました。また、増加した洪水調節容量を活用し、野村ダムではより大規模洪水で、鹿野川ダムでは中規模洪水及びより大規模洪水で効果を発揮する操作規則に変更しました。

これからも、肱川流域の安全・安心を確保するため、流域内の国・県・市等の関係機関と連携を図り、河川・ダムが一体となった治水対策を進めてまいりたいと思います。

7月は「河川愛護月間」「海岸愛護月間」です

【 河川部 河川管理課 】

7月7日は川の日です。

国土交通省では、昭和49年から毎年7月を「河川愛護月間」と定め、国土交通省、都道府県、市町村が主体となって、地域住民、市民団体、河川行政機関等の協力を得て、流域全体の良好な河川環境の保全・再生を積極的に推進しています。

また、近年多発する河川水難事故を受け、7月1日～7日を「河川水難事故防止週間」と定め、出前講座等により水難事故防止に関する啓発活動を行い、河川利用者の安全意識の向上を図ります。

令和元年度も「川遊び～川での思い出・川への思い～」をテーマに「絵手紙」を募集します。昨年度の絵手紙コンクールにおいて、徳島県吉野川市立西麻植小学校4年の前田知輝さんが最優秀賞（国土交通大臣賞）に輝き、今年度のポスターに採用されています。

「絵手紙」の募集の他、河川一斉清掃、水生生物調査、水難事故防止啓発活動など様々な行事に取り組み、より一層の河川愛護意識の高揚を図ることとしています。

【 河川部 地域河川課 】

海岸愛護月間は、海岸域の利用が拡大し、多様化している現状を考慮して、国民の共有財産である海岸を貴重な生活空間として良好な状態に保つため、海岸の持つ重要な役割について国民の理解と関心を深めるとともに、海岸を安全に利用し、管理する運動を盛り上げ、快適でうるおいのある海岸環境を積極的に創出し、海岸愛護思想の普及と啓発を図ることを目的として、昭和47年から定められています。

本年度も7月1日から7月31日までの1ヶ月間を「海岸愛護月間」と定め、海岸愛護思想の普及と啓発、良好な海岸環境の創出、海岸の適切な利用に関する啓発などを行うため、海岸清掃等の運動を関係機関と協力して実施していきたいと思ひます。

小学校に防災学習に行ってきました！

【 防災グループ・企画部施工企画課 】

令和元年6月19日、高知大学教育学部附属小学校にて「災害から身を守る」というテーマで、小学2年生を対象に出前講座を行いました。

前半は、クイズをはさみながら高知県で起こる地震や津波について学習しました。初めての出前講座で、資料作成のときから不安でいっぱいでしたが、時間をかけて作成した津波や地震の動くアニメーションに驚く児童の姿や、クイズに元気よく答える児童の姿を見て、安心して一緒に楽しみながら、防災学習を終えることができました。出前講座をきっかけに、少しでも災害や防災に興味をもって、災害にしっかり備えていただきたいです。

後半は、高知河川国道事務所の協力を得て、災害対策用機械（排水ポンプ車、照明車）を持ち込んで、施工企画課から紹介しました。照明車を実際に操作することがで

き、「操作したい！」と手を挙げる児童がたくさんいました。排水ポンプ車や照明車に目をキラキラと輝かせていました。

四国地方整備局HP

<http://www.skr.mlit.go.jp/>

四国地方整備局Facebook

<https://www.facebook.com/shikokuchisei/>

自治体担当者様におかれましては、首長ご本人への転送とあわせて、職員の方への周知もお願いいたします。

「いきいき四国通信」に関するご意見、配信中止・配信先変更のご希望等がありましたら、下記メールアドレスまでお寄せ下さい。

国土交通省 四国地方整備局 企画部 「いきいき四国通信」事務局

<mailto:skr-seibikyoku@mlit.go.jp>
